

令和6年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業
ハッピーアイランド特別番組 『人生会議スペシャル』

○日 時：令和6年11月27日（水） 11時30分～13時55分

○場 所：エフエム沖縄スタジオ

○メッセージテーマ：『託された言葉、託したい言葉』

●出演者：パーソナリティ 多喜ひろみ氏、伊藝梓氏

那覇市医師会 副会長 玉井修氏、喜納美津男氏

県内2紙へ表敬訪問にてPR



【目的】在宅医療や介護の普及啓発、また、リスナーの皆様が、人生の最終段階における医療や療養場所の選択について自ら考え、信頼する人たちと話し合うきっかけ作りになることを目的とする。

サマリー リスナー皆様より「縁起でもない避けたいような話したが、その時が来てしまうと聞くに聞けなくなるので聞いてみたい」、「最期を自宅で自然に迎えるために環境を今で整えたい」、「自分に向き合う時間になった」、「人生会議、この言葉の意味すら分からなかったが調べてみて大切なことだと分かった」等の感想もあり、この番組がきっかけで自発的にACPの大切さを意識する方もいた。中には「日々の暮らして困っている人へ、我慢が美德の時代は卒業、甘えが美德でどんどん周りに頼ってほしい、愛が溢れる社会になりますように」という一歩踏み出せないでいる方への励ましのメッセージもあり、人と人が支え合う大切さも学ぶ機会になった。また今回、人生会議に関するアンケートも実施し、このようなACP普及啓発活動は今後も必要だと思いますか？の問いに全員が「必要」という回答があった。今後もラジオ等での発信や地域の集まりなどにも出向き、ACPを広く周知していきたい。



市民の皆さんと行政や専門機関等をつなぐパイプ役として活躍している那覇市民生委員児童委員連合会 民生委員の
平良朝子様・新垣全明様・賀数幸子様・阿波連愛香様



独居や身寄りのない方、障がいをお持ちの方でも様々なサービスを利用しながら安心して暮らしていけるように法律の専門家の立場からご助言頂いた ゆいま〜る法律事務所 寺田 明弘 弁護士



人生の最終段階における医療・ケアに関するアンケート

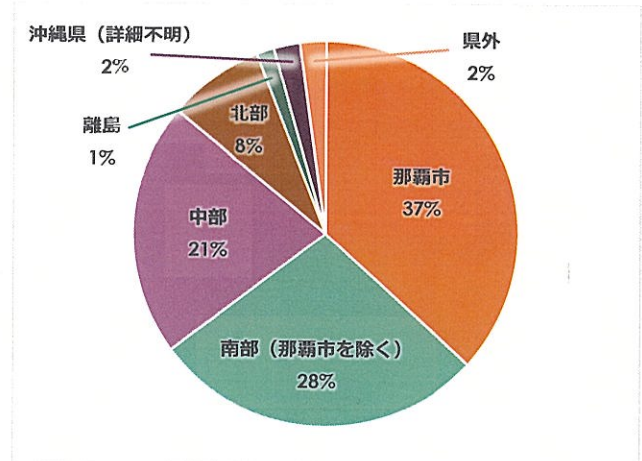
回答期間：令和6年9月12日（木）～ 令和6年12月8日（日）

回答者数：136名

※ 今回、5回目の『ハッピーアイランド人生会議スペシャル』放送ということで、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する沖縄県民の意識調査（人生の最終段階における医療・ケアに関するアンケート）を実施し、136名の回答があった。実施方法は、ちゅいしーじー那覇ホームページ、なは市民の友、エフエム沖縄ホームページ、琉球新報および沖縄タイムス（広告欄、表敬訪問での告知、論壇等）でQRコードを掲載し、回答いただいた。

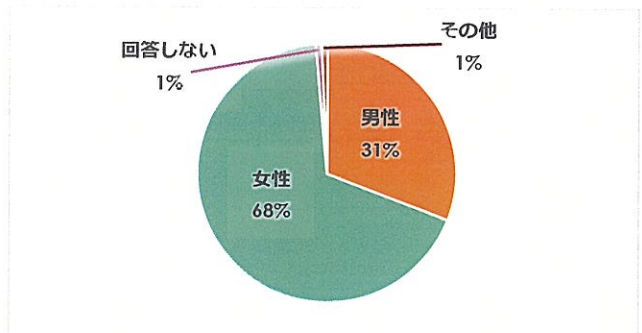
■ お住いの地域

項目	人数	割合
那覇市	50	37%
南部（那覇市を除く）	38	28%
中部	29	21%
北部	11	8%
離島	2	1%
沖縄県（詳細不明）	3	2%
県外	3	2%
合計	136	100%



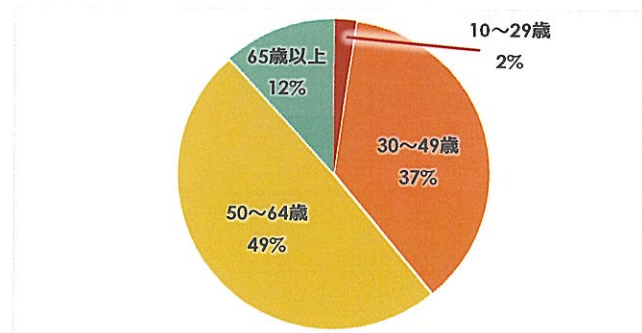
■ 性別

項目	人数	割合
男性	42	31%
女性	92	68%
回答しない	1	1%
その他	1	1%
合計	136	100%



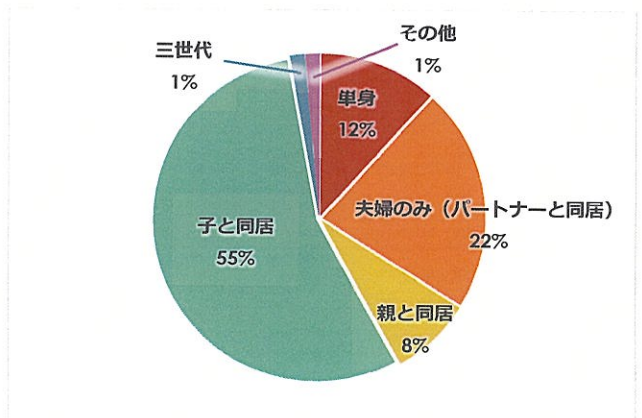
■ 年齢

項目	人数	割合
10～29歳	3	2%
30～49歳	50	37%
50～64歳	67	49%
65歳以上	16	12%
合計	136	100%



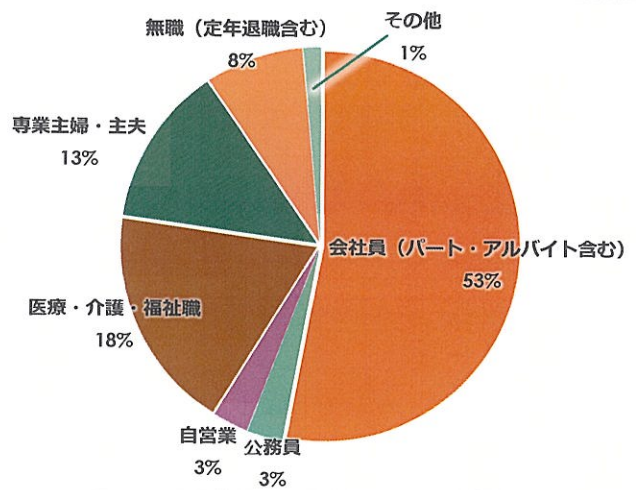
■ 家族構成

項目	人数	割合
単身	16	12%
夫婦のみ（パートナーと同居）	30	22%
親と同居	11	8%
子と同居	75	55%
三世代	2	1%
その他	2	1%
合計	136	100%



■ 現在のお勤め状況

項目	人数	割合
会社員（パート・アルバイト含む）	72	53%
公務員	4	3%
自営業	4	3%
医療・介護・福祉職	25	18%
専業主婦・主夫	18	13%
学生	0	0%
無職（定年退職含む）	11	8%
その他	2	1%
合計	136	100%



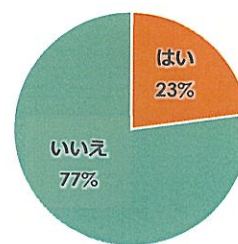
Q 1. 『ハッピーアイランド人生会議スペシャル』を何でご存じになりましたか。（複数回答可）

項目	人数	割合
病院・診療所	8	6%
新聞	14	10%
なは市民の友（広報誌）	4	3%
飲食店	1	1%
知人・友人などからの紹介	25	17%
エフエム沖縄（ラジオ）	68	48%
ちゅいしーじー那覇ホームページ	12	8%
その他	4	3%
無回答	7	5%
合計	143	100%

※約5割の方がラジオを通じて知ったとの回答が多かった。ラジオ番組内での事前告知や新聞等での告知（広告欄、表敬訪問での告知、論壇等）後にアンケート回答者が増えたため、メディアを活用した広報は効果的であったと思われる。

Q 2. 現在、どなたかの介護を担っていらっしゃいますか？

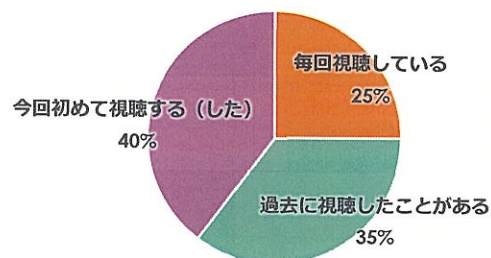
項目	人数	割合
はい	31	23%
いいえ	105	77%
合計	136	100%



※約8割の方が介護未経験との回答があり、番組内での介護経験者のアドバイス等の話題が参考になったと思われる。

Q 3. ラジオ特別番組『ハッピーアイランド人生会議スペシャル』の視聴について

項目	人数	割合
毎回視聴している	34	25%
過去に視聴したことがある	48	35%
今回初めて視聴する（した）	54	40%
合計	136	100%

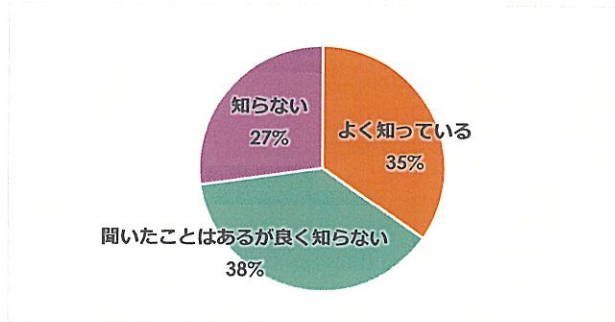


※4割の方が初めて視聴する（した）との回答があり、一定のメディアを活用した告知の効果があつたと思われる。

Q4. あなたは、『人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）』について、これまで知っていましたか？

『人生会議』とは、もしもの時のためにご自身が望む医療やケアについて、身近な人と前もって話し合い共有すること。

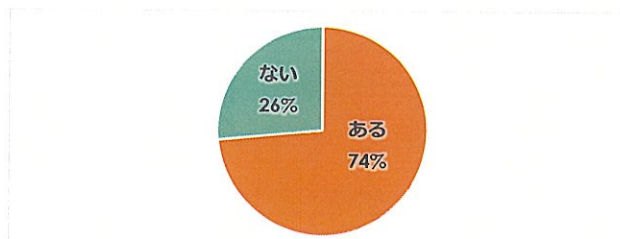
項目	人数	割合
よく知っている	47	35%
聞いたことはあるが良く知らない	52	38%
知らない	37	27%
合計	136	100%



※「聞いたことはあるが良く知らない」が約4割、「知らない」が約3割という結果から、計約7割の方々当番組をきっかけにACP（アドバンス・ケア・プランニング）について考える機会になったと思われる。同時にACPについて浸透されていないことが考えられるため、今後もこのようなACP普及啓発活動が必要である。

Q5. あなたは、人生の最終段階における医療・ケアに関する希望について、これまで考えたことはありますか？

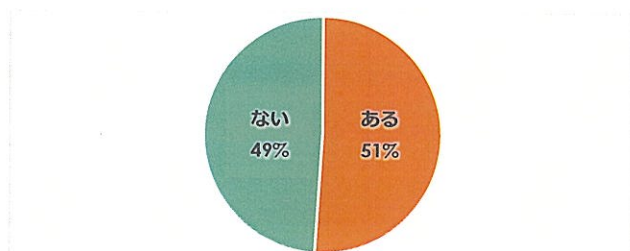
項目	人数	割合
ある	100	74%
ない	36	26%
合計	136	100%



※7割以上の方が「ある」との回答があり、5年間継続してきた当番組がACPを考える機会になっていることを期待する。

Q6. あなたが人生の最終段階で受けたい、もしくは受けたくない医療・ケアについて、誰かに伝えたことはありますか？

項目	人数	割合
ある	51	51%
ない	49	49%
合計	100	100%



※Q5でACPについて、これまで考えたことがあるかの問いに7割以上の方が「ある」との回答に対し、Q6では、「その想いを誰かに伝えたことがあるか」についての回答には約5割の方が「ある」という結果になった。その結果から2割以上の方は、ACPについて考えてはいるが、その想いをまだ誰かに伝えられていない現状が垣間見えた。

Q7. （上記質問で「ある」とお答えした方のみ回答）それはどのような出来事がきっかけで、あなたにご自身の想いを伝えようと思われましたか？

- 1) 「もし〇〇になったら」という話を家族で良くしている。その話の流れで、自分が動けなくなったら…ということは家族にも伝えている。
- 2) 12年前に亡くなった父母の介護を通して、夫や子供達に私は胃瘻や人工呼吸器などの延命治療に関する事はしませんがと伝えました。
- 3) ACPについて学んだ機会に家族に伝えた。
- 4) きっかけは年齢・独身のため。想いはまだ伝えていません（兄夫妻に伝えることを考えています）。
- 5) きっかけは前回のハッピーアイランド人生会議スペシャルです。私の母は5年前に92歳で亡くなりました。人生会議を知る前です。知っていれば色々な要望も聞けた話しもできたのになど反省ばかりです。そういう事もあり、主人と娘に今のうちにと伝えて話しました。毎日ではないのですが、普段の会話になっています。

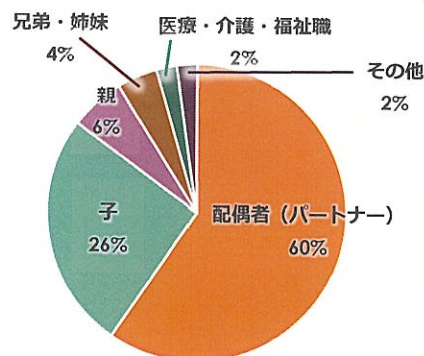
- 6) この番組を毎年聞いています。この番組の話をついにした時に、私の思いを伝えました。
- 7) テレビで医療ドラマや病気や事故のニュースを見た時。
- 8) テレビ番組を見ながら祖母が「最期は無理に生かしてほしくないな」と呟いたことをきっかけに、その場にいた母親など家族に自分の考えを伝えたことがある。
- 9) マスメディアで終末期における延命治療の番組を観たとき、聞いたときに自身の意思で治療が選択できればと思うようになり、それを自分の意思がはっきりと示せる段階で家族に伝えておく必要があると思った。
- 10) まだ誰にも伝えてはいないが、人生最期をどのように迎えるかは誰しも住み慣れた自宅で療養して、必要とあれば緩和ケア病棟に入院というのが本音であろう、でも自分をとり囲む環境、経済的な面、願いと現実とは伴わない。現在、親の介護を経験しながら、いずれは訪れるであろう自分のことと重ね合わせて避けられないテーマである。でも、私はパートナーにだけは意思を伝えたいと思います。
- 11) もしバナゲームをしたこと。
- 12) ラジオを聴いたあとに、こんな放送があったよと主人と娘に話しました。私の最後はこうしてほしいと言うと、私らしいと言われました。主人、娘も私と同じ考えでした。お互い知っているという事ですごく安心感もあります。縁起でもないという人もいますが、我が家では普通の会話になってます。
- 13) 医師という職業柄、日常業務を進める上でACPを避けては通れないため、自分自身についても考えた。しかし、32歳で単身ということもあり、親や兄弟にはまだ伝えてない。
- 14) 延命治療は受けない。
- 15) 延命処置はしないで欲しいと妻に伝えている。
- 16) 家族には延命処置は希望しないと伝えています。昔、特養で長い期間勤務していて、身近に死と向き合ってきた。自分の老いを自然な形で終わらせたい。
- 17) 義兄の死がきっかけで延命治療はしないように妻へ伝えた。
- 18) 現在、膝と腰が悪い為、これ以上良くなれないし最悪車椅子生活。膝は変形型膝関節症、腰は脊柱管狭窄症。
- 19) 姑の最後を見て、自分はエンディングノートを作成・記載した。
- 20) 昨年ハッピーアイランド人生会議スペシャルを聴いた日がきっかけです。一昨年も同じくラジオを聴いた日です。夫と娘と話し合いました。夫からは、自分も同じ考えだと言われ、娘からは、なんとなくだけど分かったと言ってもらいました。
- 21) 仕事で看取っている経験から、いつも感じる気持ちを家族に話しています。(気持ちの変化も含めて)
- 22) 仕事で同じ遭遇の家族と関わったことで、終末期を迎える時に一緒に暮らしている方へ伝えたい。
- 23) 子どもがいなくて、主人は数年前に他界し、現在ひとり。お弟子さんにいろいろ伝えている。主人が心筋梗塞で急死したことがきっかけ。現在は、でいご会にはいり、誰かの役に立てればと思う。
- 24) 子どもと将来のことについて話している時に、親のケアよりも自分の好きなことを優先してと伝えた。
- 25) 子供に介護の負担をさせたくない。
- 26) 自身が病気になったことがきっかけです。
- 27) 実父が危篤になった時に、子供たちに対して自分は延命処置や治療は希望しないと伝えた。
- 28) 主人が倒れた時に、主人と子供達に伝えた。
- 29) 手術後、全身の痛みがひどかったことがきっかけで想いを伝えた。
- 30) 常日頃から考えている。
- 31) 寝たきりのお世話の話聞いて家族に延命はナシと伝えた。
- 32) 寝たきりの入院生活や介護などの状況を身近な方やTVなどで報道されているのを見て、妻と話をしました。
- 33) 親が病気をしたときに子である私達にそのような話をしてきた時がきっかけ。配偶者や、子供には、自分がどうしたいかを伝えられるうちに伝えておかないと、と思った。
- 34) 親の病気が発見された時。
- 35) 親族の死がきっかけでした。配偶者に伝えたいと思いました。
- 36) 親類の死去がきっかけ。
- 37) 身近な人が亡くなった際に自分の最後の希望などを話しておくことで家族も迷わないでいいと思い伝えた。
- 38) 身内に永久気管切開するかどうかの選択を迫られたとき、お互い夫に延命のためだけの処置は希望しないことを確認した。
- 39) 祖父母の介護がきっかけ。

- 40) 生命保険外交員で、医療現場の方からのお話、実際に重い病氣と闘っている方を見て、その都度、主人には将来的な医療・ケアについて大まかに話している。
- 41) 祖父の延命治療を希望して本人の拒否が強く後悔した体験があり、夫や両親に終末期ケアについてよく話し合っています。各々の希望も理解できています。
- 42) 祖母がALSで13年間も介護が必要な状態となり、叔母や母が介護をしている姿を見て、私に万が一、何かあった際には延命処置は行なわない様に周りに伝えている。
- 43) 他人の病状例を聞いた時。
- 44) 地域包括支援センターの無料セミナーを受講した際に知り、子供達へ延命処置は望まない事を伝えています。
- 45) 弟が末期がんになったことがきっかけ。
- 46) 突然「まさか」はやってくるので伝え漏れをなくそうと思って夫に思いを伝えました（あと気が早いと言われましたが終活ノートも書いてます）。
- 47) 入院した事と老健、訪問看護で働いている先輩達を見ていて、息子に伝えておこうと思いました。
- 48) 年初に元気だった叔父が大動脈瘤で急逝したことがきっかけ。
- 49) 脳出血で救急搬送されてリハビリ病院から退院したとき。主人と娘に延命処置はしなくてもいい、それが寿命。と伝えた。
- 50) 病院に勤めていて、現場ではそれが当然だったため。
- 51) 病院勤務の中で、色々考えさせられる。
- 52) 父が倒れたこと、仕事で関わる人の支援を通じて。
- 53) 父が亡くなった時。
- 54) 父親が脳梗塞で植物状態となり、家族としては生きてほしいですが、自分が同じような状況になったら延命治療はしたくないと思い、尊厳死宣言書を作って財布に入れて持ち歩いている。職場には伝えている。
- 55) 母の死をきっかけに姉妹で話した。
- 56) 母の入院がきっかけで、家族内で話し合いました。
- 57) 母親が施設に入所しており、寝たきりで自分の意思を伝えることができない状態であること、また自身が高齢者になって終活を意識するようになった。夫には伝えているが真剣に捉えていないような気がする。
- 58) 約20年ほど前、風邪気味体調不良の中、娘の結婚前に家族みんなで海外ツアーに参加しました。帰途の飛行機の中で入眠から一過性に意識消失があり、白い三途の川を夢心地でみていました。皆さんに多大なご迷惑をおかけした次第、到着後救急病院へ搬送、一泊し帰宅することができました。これを機に延命治療について家族で話し合い、無理な延命処置はしない、苦痛はとってほしい、告知してもらおう、葬儀後は海へ散骨等夫、子供へ伝えました。その後普段の会話の中で家族みんなが思いを話すようになりました。
- 59) 両親の介護がきっかけです。

※自由記載の結果から、「人生の最終段階における医療・ケアに関する希望について」身近にいる人の死や親の介護、当番組のACPに関する話題がきっかけで家族や自分の子供に想いを伝えている方が多かった。普段の何気ない会話の中からお互いの想いを言い合える環境づくりが理想的である。

Q 8. もし、あなたが意思を伝えられなくなった時、自分の医療・ケアに関する方針を、あなたに代わって医療者に伝えてほしいと思う人は誰ですか？

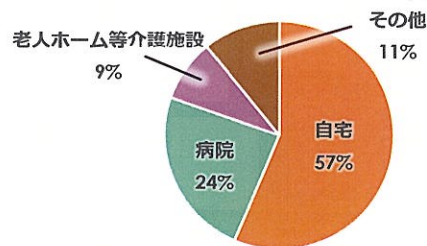
項目	人数	割合
配偶者（パートナー）	81	60%
子	35	26%
親	8	6%
兄弟・姉妹	6	4%
医療・介護・福祉職	3	2%
その他	3	2%
合計	136	100%



※6割の方が、自分の医療・ケアに関する方針（ご自身の想い）を配偶者（パートナー）に代弁してほしいとの回答があった。次いで約3割の方が自分の子供にご自身の想いを代弁してほしいとの結果になった。

Q 9. もし、あなたが病気で治る見込みがなかった場合、最期をどこで迎えたいですか？

項目	人数	割合
自宅	77	57%
病院	32	24%
老人ホーム等介護施設	12	9%
その他	15	11%
合計	136	100%



※約6割の方が、最期は自宅で迎えたいとの回答が多かった。次いで2割以上の方が最期は病院でとの結果になった。

Q 10. 上記質問でお答えいただいたご自身の望む最期の場所について、その場所を選んだ理由を教えてください。

【自宅】

- 1) 1番のお気に入りの場所だから。
- 2) いつもと変わらない日常の中で過ごしながらか死にたい。
- 3) いつも使用しているベッドで最期を迎えたい。
- 4) その病気の体調具合にもよりますが、可能ならやっぱり最後は家族に囲まれて最期を迎えたいと思います。でもその体調に合わせて、迷惑にならない範囲での希望ですね！実は今年東京に住んでいる妹の旦那さんが、肺がんで亡くなりました。その旦那さんは初診で末期の肺がんで余命半年と言われていました。でもその旦那さんの希望で病院ではなく、自宅での治療を希望しました。看護師をしている妹は仕事を辞めて旦那さんの世話をする為に色々な器具も家に置いて在宅治療を始めたところ、まさかの三年も年を越せました。勿論その間色々な治療をする時には、検査入院もしました。その甲斐あって家族でも旅行に行く事も可能になり、本当に沢山の家族の思い出を作っていました。最後の旅行は父の法事で沖縄に来れたのが本当に良かったと妹も話していました。その間勿論全てがスムーズに流れた訳ではなく、時には痛みが苦しくて夫婦で言い合いもした事もあり、妹もパートとして看護師の仕事も少し調整しながら家族で乗り越えてました。でも在宅で過ごした時の思い出がとても良かったと後悔なく家族全員で見送り出来て良かったと話してました。
- 5) なるべくいつも通りの場所にいたい。
- 6) なるべく迷惑を掛けず、あまり知られたくないから。
- 7) ほっと出来る家で、ゆっくりしたい。
- 8) やはり長年住んだ自宅が良いと思います。
- 9) リラックスできる場所で過ごしたい。
- 10) 延命治療は望まないの、大好きな空間で最後は居たいから。
- 11) 家族だけで過ごしたいから。でも家族に負担がかかるのであれば負担がかからないような方法を選びたい。
- 12) 家族と普段と変わらない生活を送りながら最期を迎えたいです。
- 13) 家族にあまえられるから。
- 14) 家族に会いたい、感謝を述べたいから。
- 15) 家族に看取られたい。
- 16) 家族のそばに居たいからです。
- 17) 家族の居る場所だから。
- 18) 慣れ親しんだ安心できる場所だと思うから。
- 19) 犬や猫も家族なので、最後はペットを含む家族とともに過ごしたい。
- 20) 見慣れた光景の中だと、悔いは無いのではないかな。
- 21) 好きなものに囲まれた環境だから。
- 22) 最期は子供に少し迷惑をかけるかもしれないが、少しでも話が出来たらいいのかなあと思うから。
- 23) 最期はおうちの方が安心感がある。
- 24) 最期は家族に見送られたいから。
- 25) 最期まで愛する家族やペットと一緒に居たい。ただし家族の負担になる様であれば病院や施設でも構わない。
- 26) 妻が選んだ家なので。

- 27) 子供がまだ独立していないから、近くで見守りたい。
- 28) 思い出の詰まった場所だから。
- 29) 私は独身なので、どうなるかわかりませんが、最後は自宅で過ごせたらと今は思います。
- 30) 治る見込みがないなら自宅でゆっくり過ごしたい。
- 31) 治る見込みがなく、介護の必要のない病気なら家で家族と楽しく過ごして最期を迎えたいです。
- 32) 治療は望んでいないから。
- 33) 自分が過ごしてきた場所だから。
- 34) 自分が今まで住んできた家で最期を迎えて落ち着きたい。
- 35) 自分で建てた自宅だから。
- 36) 自分らしく過ごせるから。
- 37) 寿命なら延命治療をせずに静かに亡くなりたい。
- 38) 住み慣れた家で気兼ねなくゆったり過ごせそうだから。
- 39) 住み慣れた自宅で家族の側が落ち着けるし安心感があるから。
- 40) 住み慣れた所で、景色を見ながら最期を迎えたい。
- 41) 身体が自由に動けるなら、自宅。毎日、家族と笑顔で当たり前の日々を穏やかに過ごしたい。
- 42) 人生をかけて建てた家なので、最期はやっぱり家かなと思います。
- 43) 生まれ育った場所だから。
- 44) 積極的な治療をせず家で穏やかに最期をむかえたい。
- 45) 中部地区医師会が母体にあるターミナルケアをしてくれる施設は良かったです。
- 46) 病院では面会時間等があるので、自宅でゆっくりと気兼ねなく家族に見守られながらその時を迎えたいから。
- 47) 病院には入りたくない。自宅かアトリエで最期を迎えたい。
- 48) 夫や子供と気兼ねなく過ごしたいから。病院や施設だとどうしても他の患者さんやスタッフの目が気になる。もっと年を取ってスタッフと家族みたいな感じになれば施設などで最期を迎えてもよいと思うかもしれない。
- 49) 夫自身が介助が必要で夫の事が心配。
- 50) 夫婦で建てた家だから。
- 51) 母、叔父の介護看取りを経験しました。正直大変な事が多々ありましたが、在宅での看取りが出来まして最良の結果と思う事が出来たからです。
- 52) 自宅が心落ち着ける場所だと思う。
- 53) 一番落ち着く場所で・・・（負担をかけたくない場合は病院になりますか？気になります）
- 54) 落ち着く場所。最後に家からの景色を見たい。

【病院】

- 1) おそらく一番周囲への負担が最小限に抑えられるのかと思う。
- 2) これまで最期を立ち会ってきた中で、病院の対応が丁寧かつ適切で家族への負担が少なかったから。
- 3) ターミナルケア病棟で痛みの緩和だけしてもらいたい。子や孫に介護負担を掛けたくないです。
- 4) たとえ、治らないとしても自宅で周りにヒヤヒヤさせながら最期を迎えるより安心できる病院で迎えたい。
- 5) 安心できる。家族に迷惑をかけたくない。
- 6) 遺族の負担が軽減されるから。
- 7) 医療関係者に治療を諦めて欲しい。
- 8) 病院の方が何かとスムーズになると思うから。
- 9) 家で何かあった時にもっとできることがあったなどと家族に思っほしくない為。
- 10) 家族と居たいが、家族には迷惑をかけたくないから。
- 11) 家族に見守られながらの看取りが一番の理想ですが、医療専門の方にフォローしてもらいたい。
- 12) 家族に出来るだけ負担をかけたくない。
- 13) 家族に負担をかけたくない。亡くなる前に病院でありがとうを伝えられたらいいかなと思います。
- 14) 介護者がいない。
- 15) 希望は自宅ですが、親族に手間をかけてしまうのが理由です。
- 16) 孤独にならず安心できる。

- 17) 在宅での看取りケアは家族の時間もお金もかかる。また、現在賃貸マンションの為、自宅で亡くなる事は大家さん及び管理会社にもご迷惑をかける為。
- 18) 自宅がいいがマンションに独り住まいで後々を考えると、病気で入院してそのまま死を向かえるのかなと思う。
- 19) 自宅と答えたいですが、家族の大変さが分かるので家以外がいいかなと思っています。
- 20) 親や兄弟に迷惑を掛けたくないから。上手く介護してもらえないと思えないから。
- 21) 病院なら痛みをとってくれそうだから。

【老人ホーム等介護施設】

- 1) きょうだいの負担にはなりたくない。
- 2) 家族に迷惑をかけたくないの、施設に入所したいです。
- 3) 結局そこが最後にお世話になるはずだから。
- 4) 妻、子供に負担になってほしくない。
- 5) 持ち家ではないので。
- 6) 治癒の見込みがないのであれば、病院で点滴に繋がれることなく、穏やかに最後を迎えたいから。
- 7) 自宅が理想ですが、最後まで家族に迷惑をかけたくないの。
- 8) 第三者の方々に関わっていただく事で、家族への負担が小さくなると思います。
- 9) 本当は自宅が良いが、身近な人に介護などで手間をかけたくないの施設を選んだ。
- 10) 老老介護になるからパートナーに迷惑をかけたくない。

【その他】

- 1) その時の自分自身・家族の状況など考慮して場所は選択したい。
- 2) やんばる。
- 3) 家族が都合の良い場所であればどこでも良い。
- 4) 家族の手を煩わせたくない。
- 5) 海の上。波の音が好きだから。
- 6) 経済的・心理的・物理的な距離等で家族の負担が少ないところ。
- 7) 今はまだわからないです。とにかく家族にとって負担が少ない場所がどこかを考えたい。
- 8) 最後は自分ではなく、その時の環境・状況が良い。
- 9) 場所はどちらでも良いです。病院であろうが自宅であろうが、家族に見守られながら最期を迎えられたら良いです。自宅であれば、身近に家族を感じられますが、家族に負担をかけたくないの場所は限定しません。
- 10) 成り行きなので、何処でも。
- 11) 誰かに負担をかけず、ゆっくりと過ごしたいと思うから。
- 12) 独身なので、病院か老人ホーム等介護施設のいずれか。
- 13) 迷惑をかけずに静かに迎えたい。残される家族も心穏やかに見送れるようにしたい。
- 14) やはり最期は幼少期から過ごした実家で過ごしたい。親より早く逝くことになるのであれば、親の近くで感謝を伝えられる状態にありたい。

※自由記載の結果から、「最期は自宅」が多い理由として、住み慣れたところ・落ち着ける場所で家族に見守られながら最期を迎えたいとの回答が多かった。一方、次に回答が多かった「病院で最期を迎えたい」理由として、家族に最期まで負担をかけたくないとの回答が多数あったため、今後も当事業を通して在宅医療の実際やサポート等についての周知活動も継続的に必要である。

Q11. ラジオ特別番組『ハッピーアイランド人生会議スペシャル』のような普及啓発活動は今後も必要だと思いますか？

項目	人数	割合
はい	136	100%
いいえ	0	0%
合計	136	100%



※回答者全員が今後もこのようなラジオ番組等によるACP普及啓発活動は必要との回答があったため、今後も定期的に地域（老人会、公民館等）に出向き、ACPを自然なプロセスとして考えられるよう取り組んでいきたい。